

高崎市教育委員会定例会会議録

開 会 年 月 日

令和3年4月22日(木) 午後2時

閉 会 年 月 日

令和3年4月22日(木) 午後2時23分

会 議 の 場 所

教育委員会室

教 育 長 飯 野 眞 幸

教育長職務
代 理 者 清 水 久 美

委 員 塚 田 展 子

委 員 重 田 誠

委 員 神 宮 嘉 一

事 務 局 (説明員)

教育部長 小 見 幸 雄

学校教育担当部長 山 崎 幹 夫

教育総務課長 小 池 郁 生

社会教育課長 茂 原 久美子

文化財保護課長 角 田 眞 也

中央公民館長 藍 美 香

中央図書館次長 齊 藤 寛 方

教職員課長 岡 田 朝 夫

学校教育課長 橋 爪 幸 雄

健康教育課長 長 岡 誠

教育センター所長 永 井 智 幸

高崎経済大学附属高等学校事務長 新 井 史 代

書記 教育総務課 宮 澤 信 宏

4月22日	会議に附した事件
報告連絡事項	令和3年度における学校（園）施設の工事計画について

高崎市教育委員会 4月定例会会議録

教育長（飯野眞幸）

今年度の初めての定例会ですので、会議に先立ちまして、人事異動に伴う職員の紹介を事務局からしてもらいます。

（職員紹介：小見教育部長）

教育長（飯野眞幸）

教育委員さん方からも、自己紹介を一言いただけたらと思います。

教育長職務代理者（清水久美）

教育長職務代理者の清水久美と申します。任期の最後の年となりますが、このコロナ禍の中で皆様と共に頑張ってまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員（塚田展子）

教育委員3年目となります、塚田展子です。よろしくお願いいたします。

委員（重田誠）

教育委員2年目となります、重田と申します。私は小児科医をしております。コロナ禍で本当に皆様大変だと思いますが、微力ながら医学的なことも含めて、一緒にやっていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

委員（神宮嘉一）

昨年より教育委員としてお世話になっております、神宮嘉一と申します。市P連の時にお世話になった方も沢山いらっしゃいますので、改めてよろしくお願いいたします。

教育長（飯野眞幸）

高崎市教育委員会の特色とすれば、教育委員と事務局幹部との連携がとてもうまくいっているということだと思います。今年度もよろしくお願いいたします。

それでは、これより高崎市教育委員会4月定例会を開会いたします。

議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

日程第1 会期の決定といたしまして、会期は、本日1日といたします。

日程第2 会議録署名人の指名といたしまして、会議録署名人に、重田委員と神宮委員を指名させていただきます。よろしくお願いいたします。

日程第3 会議録の承認といたしまして、前回の会議録を事前に送付させていただきましたが、内容について何かございますか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

「なし」とのお声をいただきましたので、会議録はご異議なしと認め、原案のとおり承認させていただきます。

教育長（飯野眞幸）

それでは、本日の議事に入ります。

報告連絡事項といたしまして、「令和3年度における学校（園）施設の工事計画について」の説明をお願いします。

（小池 教育総務課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質問等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

以上で、予定していた議事の審査は終了いたしました。事務局からその他、報告等ありますか。

（「特になし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

次に、委員の皆様からこの際、ご意見、ご質問等があれば出していただけたらと思います。

委員（重田誠）

皆様ご存知のように、新型コロナウイルスの変異株の問題がマスコミで騒がれておりますが、先日小児科学会がありまして、そこでも検討がなされました。基本的に変異株は以前の株より小児にうつりやすくなっていますが、今のところイギリス型の変異株でも小児だからうつりやすいということはありません。イギリスと日本のデータを分析すると、全体の数が増えるに従って、小児の数が増えているということで、直近のデータですと、小児は今まで約9%だったのですが、変異株は約20%の率になっています。基本的に数は増えていますが、子どもだからうつりやすいということはないので、その辺に関しては心配することはありません。

ただ問題は数が増えているので、今まではほとんど9割以上がご両親からうつっていましたが、今後本人から出る可能性があります。その辺りを少し注意してあげるといいかなと思います。今のところはイギリスの変異株ですが、南アフリカとか、特にブラジルの変異株が入ってくると、少し事情が変わってきます。その辺りを注意しながら、今までどおりの感染対策を行っていただけたらと思います。小児学会も子どもの感染対策は今までどおりで良いということになっています。しかし、今後もっと増えてくると、変わってくるかもしれないので、またご報告いたします。

おそらく、これから学校でもだんだん出てくると思います。そういった時に、学校の先生は自分の学校から出ることにかなり戦々恐々としたり、非常に責任感を感じたりすると思いますので、学校の先生やその学校が叩かれたりとか、そういったことが無いように、教育委員会でもサポートしていただければと思います。その先生が悪いわけではないので、その辺りも考えていかないと、数が増えてくると大変になるかなと思います。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。その他にいかがですか。

教育長職務代理人（清水久美）

学校の歯科医をやっております、今日歯科健診へ行ってきました。年々、虫歯の子がいなくなっていて、親の認識の変化を感じています。しかし、今年行って驚いたことがあります。検査の項目の中に虫歯のチェックのほかに、歯列、顎関節、歯肉、歯垢の4項目があり、歯肉と歯垢には0、1、2という段階があって、0がよく磨けています、歯肉炎の兆候が見られませんかということなのですが、今日は歯肉、歯垢のところが1や2の子が本当に多く、やはりマスクの影響が多少なりともあるのではないかと話をしてきました。マスクをしていると口元が全部隠れていますので、口の清掃が少しおざなりになっている結果、歯垢や歯肉が1とか2になっているのではないかなと感じました。今までとても綺麗だった子が1とか2になっていましたので、やはりマスクで口が見えないからいいかという考え方も少し影響していると思いました。逆に、マスクをしていることで、自分の口臭に気付きやすくなるということがあるようです。子どもは今の時点から歯垢や歯肉の健康状態が良くないと今後に影響してしまいますので、その辺の口腔ケアについて、学校として少し気にかけていただけたらと思いました。

教育長（飯野眞幸）

貴重なご意見をありがとうございました。学校は6月くらいまで健康診断があるので、情報を提供していただき、今のお話が反映されるように対応してもらいたいと思います。

教育長職務代理人（清水久美）

このコロナ禍で、学校側はよく感染対策をしてくださっています。健診する側も色々な対策をしています。今までの健診では1本のミラーでグローブをして、手とミラーで見えにくいところは、少し指で引っ張って行っていました、今日は2本のミラーを使ってみました。ただそうすると、学校の器具としてのミラーの本数が足りなくなってしまうので、1本でどうにか触れずに駆使してやりました。ミラーを購入するのは学校の負担になってしまいますので、近隣の学校同士でおそらく日程は違うと思いますので、借りたりしながら上手くやっていただければと思います。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

委員（塚田展子）

先日、NHKの「クローズアップ現代」という番組で、感染を不安に感じて自主休校する子どもについての特集をやっていました。その時に放映されていたのは、喘息という基礎疾患がある為に、学校をお休みせざるを得ないという寂し気な子どもの映像です。室内から外で遊んでいる子どもたちを羨ましそうに見ているのが、とても心に残っています。しかし、現実問題としてコロナが非常に感染拡大していますので、それとは別に感染するのではないかという不安、登校したくてもできない子どもたちが、データによっては2割くらいいるらしいのです。しかし、そういう子どもたちがいると同時に、それに乗じてお休みしてしまうという子どももいるでしょうし、その辺のところを

具体的に細やかな目で見ておいていただけたらと思います。喘息等の基礎疾患があって、行きたくても行けない子どもがいる一方、行かないことをこれに乗じるという子どもの様子も見ておく必要があるのかなと思いました。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。

委員（重田誠）

そのとおりだと思いますが、あの番組だけでなく、ニュースでもやっていましたが、アレルギーの専門医から見ると、喘息の子で学校へ行けないということには疑問点が多く、基本的に子どもの喘息で、コロナのために学校に行けない子はいないはずで、喘息はコロナに感染しても悪化しませんし、リスクはそう変わりません。普通であれば喘息だけでコロナで学校に行けないという指導はしないはずで、あの子どもは何かプラスαがあったのかもしれません。あれだけを見ると喘息の子どもは学校に行けないのではないかという間違った印象を与えてしまうかもしれません。喘息の子どもは基本的にコロナに感染しても高いリスクはないので、原則コントロールできている喘息の子どもは、学校を休む必要は全くありません。それ以外に、沢山の疾患がありますが、一部の代謝性疾患などの子どもは確かに行けない場合もあります。通常、喘息だけではコントロールすればコロナで行けないということはないはずで、

委員（塚田展子）

お医者さんが、基本的には行かない方がいいということを番組の中ではおっしゃっていましたが、主治医がそのような判断がある場合には、当然特別な配慮をしていただくことになりますでしょうか。

委員（重田誠）

あの子はプラスαがあったのではないかなと思います。ただ拡大解釈してすべて喘息は行けないと思うのは困りますが、おそらく何かあったのだと思いますので、その辺は主治医と学校と家族で相談されるのがよろしいかと思います。

教育長（飯野眞幸）

他に、いかがでしょうか。

委員（神宮嘉一）

コロナに関連してですが、新型、変異株のコロナが増えている中で、今後子どもたちに感染が広がるリスクも出てくるのかなと感じています。そうした中で、以前に少しお話をしましたが、部活動をしている子どもたちにとって、発表の場が奪われるという事が極力無いようにと願うばかりです。学校の管理下にある部活は、中止するなどの対処のしようがあると思います。しかし、学校の部活ではなく、外部のクラブチームに入っている子どもで、土日になると県外に行って一日かけて何試合もしたり、また県外のチームが来たりと、普通の中学の部活レベルでは考えられない、広域にわたっての活動をしているという話を聞きました。学校外での活動を変わずに続けていくことは、リスクもあるように思いました。子ども自身は、リスクに対しての危機感が大人とは違って

なかなか薄いと思います。やはり、学校から適切な情報を保護者に向けて発信していただきたいと、強く感じています。

教育長（飯野眞幸）

先程、学校教育課長との話の中で、ある中学校では部活は閑散としていますが、その学校の沢山の子どもたちがクラブチームで活動しているという話を聞いたばかりです。学校の部活については、校長の監督のもと、適正に健康管理とコロナ対策が行われていると思います。心配しているのはクラブチームで、県外への遠征等をやっている部分もありまして、その辺の連携をどうとるかということが大きな課題だと思います。また、クラブチームについては、教育委員会の管轄ではないという部分もありますので、スポーツ課等との連携も今後増えてくるのではないかと思います。

その他いかがでしょうか。

教育長職務代理人（清水久美）

先日、新聞で今年度から段階的に命の安全教育の教材が公表されたという記事を読みました。これから性教育、命の大切さの教育は段階を踏んで行われていくと思いますが、今現在、何年生から性教育は始まっているのでしょうか。

健康教育課長（長岡誠）

教育活動全体を通じて1年生からやっています。保健体育等で性教育が出てくるのは4年生からです。学級活動等の中で必要に応じて適切に指導するようにしています。

教育長（飯野眞幸）

他にはいかがでしょうか。

今、GIGAスクール構想の中で、文部科学省が視力の注意を喚起しています。例えば、画面を30分見たら1回は画面を見るのを止めるといった指針で指導するというような記事が先日載りました。これからのGIGAスクール構想の中で、目の健康という部分も考えていく必要があるのかなと感じています。

何かご意見はありますか。

委員（重田誠）

目に関しては、コンピュータの画面を見ていると、かなり酷使してしまいます。注視してしまいますので、急速に視力が落ちてしまう子もいると思います。やはり、ある程度視力は気を付けたほうがいいと思います。また、高崎市では、子どもは家にタブレットを持ち帰らないのでしょうか。

教育長（飯野眞幸）

やがて、持ち帰る事も想定しています。

委員（重田誠）

おそらく学校にいる間は大丈夫だと思います。家に帰ってずっと見ているのは、問題になってしまいます。視力のこともありますし、スマホもそうなのですが、ずっと持続的に見ていると脳の働き方自体にも影響を及ぼすと言われていています。スマホを見ている

子どもと、スマホを使ってない子どもでは、同じ勉強時間であっても、スマホを見ている子どもは成績が悪いというデータがあります。集中力を削いでしまうなど良い面と悪い面があるので、以前に少しお話をしましたが、今後いくつかのパラメーターを置いて検討をしていくと良いかと思えます。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。ないようですので、以上をもちまして、教育委員会4月定例会を閉会させていただきます。